

日本小児外科学会
令和2年度第6回定例理事会

日時：令和3年3月3日（水）11：00～16：00

会場：各施設からWeb参加

出席者：田尻達郎（理事長）、黒田達夫（理事・会長）、越永従道（理事・次期会長）、
臼井規朗、金森 豊、野田卓男、浮山越史、大植孝治、田中 潔（以上理事）、窪田正幸、
八木 實（以上監事）、藤野明浩（庶務委員長）、浦尾正彦（財務会計委員長）、上原秀一郎
（財務会計副委員長）、照井慶太（庶務副委員長）、山田洋平（庶務委員）、家入里志（施設
認定委員会委員長）、菱木知郎（専門医認定委員会委員長）、古村 眞（専門医制度庶務委員
会委員長）、和田 基（医薬品・医療機器検討委員会委員長）、仁田尾慶太（事務局）
欠席者：増本幸二（副理事長）

議事案件：

議 事：

1. 第6回定例理事会の議事録署名人は金森 豊理事、浮山越史理事とした。
2. 令和2年度第5回定例理事会議事録につき全会一致にて承認された。
3. 審議事項

1) 第58回学術集会について（黒田会長）

黒田会長より、進捗状況が報告され承認された。

前日に行われる理事会及び社員総会（評議員会）については会場を設けない完全webとして開催することとした。また、会期中に行われるNPO総会は会場とwebとのハイブリッド形式で開催、その他秋季シンポジウム小委員会と第1回理事会（新旧理事会）については会場とwebのハイブリッド開催とし、その他の委員会については開催希望があればWebexを用いて開催することが確認された。学会はzoomウェビナーを用いた配信を併用する会場を2会場とし、会場発表以外の演題は全て音声付きのオンデマンド方式とすることが提案され、承認された。

日時：令和3年4月28日（水）、29日（木）、30日（金）

会場：パシフィコ横浜ノース

テーマ：自然の臣たるなかれ

2) 第59回学術集会について（越永次期会長）

越永次期会長より、進捗状況が報告され承認された。

第58回学術集会でお呼びするはずの海外名誉会員のケビンラリー先生の講演は、第59回学術集会で講演する予定で準備を進めている。

日時：令和4年5月19日（木）、20日（金）、21日（土）

会場：虎ノ門ヒルズフォーラム

テーマ：創業と守成 Create and Sustain

3) 第 37 回秋季シンポジウムについて(金森秋季シンポジウム会長)

金森秋季シンポジウム会長より資料に基づき、進捗状況が報告され承認された。

ポスターが完成したこと、演題募集期間は7月1日～7月30日を予定、参加費は3日間通しての参加費で準備を進めている。

日時：令和3年10月30日(土)

会場：ベルサール神田

テーマ：小児外科疾患に対する再生医療・細胞療法研究と応用

4) 第 38 回秋季シンポジウムについて(野田次期秋季シンポジウム会長)

野田次期秋季シンポジウム会長より、進捗状況が報告され承認された。

現在運営会社2社で見積もりを取って検討中である。

日時：令和4年10月29日(土)

会場：岡山コンベンションセンター

テーマ：小児外科治療後のサルベージ

5) 第 39 回秋季シンポジウムについて(臼井次々期秋季シンポジウム会長)

臼井次々期秋季シンポジウム会長より、進捗状況が報告され承認された。

日時：2023年秋頃予定

会場：未定

テーマ：小児外科領域における感染症対策

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会(藤野委員長)

藤野委員長より、資料に基づき報告がなされた。

令和3年2月末現在の会員数は、評議員を除く正会員1,739名(うち海外1名)、準会員17名、評議員310名、名誉会員58名(うち海外8名)、特別会員69名(うち海外1名)の合計2,193名である。

(2) 財務会計委員会(浦尾委員長)

浦尾委員長より報告がなされ、承認された。

・今年社員総会の時期が例年より早く開催されるため、会計監査は4月15日とタイトなスケジュールになっている。

・バナー広告の申し込みが4社あった。

- ・ 準会員勧誘の文書を4月に入ったら認定施設宛に郵送し、準会員の増加を目指す。

(3) 専門医制度委員会(菱木専門医認定委員会委員長、家入施設認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長)

菱木専門医認定委員会委員長、家入施設認定委員会委員長、古村専門医制度庶務委員会委員長より資料に基づき、進捗状況が報告され承認された。

菱木専門医認定委員会委員長より以下のことが報告された。

- ・ 2021年度の専門医・指導医新規申請は、従来通りの規定に従い認定業務を行う。
- ・ 2021年度の専門医・指導医更新の認定は、従来通りの規定に従い認定業務を行うが、2020年度の症例数が不足したため、2021年症例を追加して更新可能な場合は6年間を認定期間として延長し、2022年審査で2021年分の経験症例を紙ベースで審査する。

家入施設認定委員会委員長より以下のことが報告された。

- ・ 施設新規認定は、2020年が過去3年間の症例カウント期間に入る場合は、カウント期間を4年として3で除して平均の値で評価する。
- ・ 施設新規認は、過去3年間の症例カウント期間に2020年を含む場合は、カウント期間を4年として3で除して平均の値で評価する。

(4) 機関誌委員会(大植担当理事)

大植担当理事より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

- ・ 優秀論文の選定について、原著論文は以下の論文が選定され、承認された。

山本裕輝, 田中 潔, 出家亨一, 追木宏宣: 極・超低出生体重児の小腸ストーマ閉鎖術の至適時期に関する検討. 56巻4号, 365-369頁.

また、症例報告に関しては、以下の論文が選定され、承認された。

鈴木健斗, 文野誠久, 古川泰三, 竹内雄毅, 竹本正和, 坂井宏平, 東 真弓, 青井重善, 田尻達郎. Tension gastrothorax をきたした遅発性横隔膜ヘルニア3例の検討. 56巻7号, 1123-1127頁.

- ・ 投稿論文の質が低く査読者の負担が大きいことが複数の査読者から指摘され、「論文の書き方」のレクチャーの様な企画を検討している。
- ・ 原著・症例報告の定義について委員会内での取り決めを明文化する方向で検討する。

(5) 国際・広報委員会(田尻担当理事)

田尻担当理事より、今回特に報告事項が無い旨を述べられた。

(6) 保険診療委員会(浮山担当理事)

浮山担当理事より、資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・ 前年度の理事会から継続している大建中湯の件について、漢方薬の薬価低下と材料費の

高騰により、漢方薬は苦しい状況が続いている。そのような状況に対し、本学会は株式会社ツムラに協力すべく、①不採算算定医薬品として、②効能効果に希少疾患としてヒルシユスプルング病並びに類縁疾患に対して追記されること、を目指した。①不採算～の方は認められた。②医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬～の方は、ここ数年 PMDA を通じやりとりを繰り返している。この度担当者が代わり、改めて要望書見直し提出する運びとなった。

- ・日本小児期外科系関連学会協議会より遺伝学的検査のアンケート調査の依頼があった。3疾患の提出をしたが、アラジール症候群は2020年度診療報酬改正で保険収載となっていたため、ヒルシユスプルング病とポイツ・ジェガーズ症候群について提出した。

- ・令和4年度診療報酬改正について、外保連実務委員会より全てのアンケート調査結果が示された。共同提案を含めて再度確認作業を行った。

(7)教育委員会(大植担当理事)

大植担当理事より、資料に基づき、報告がなされ承認された。

学生、若手医師のリクルート・育成するための具体的方策案を検討した。

- ・レジナビなどに学会としてブースを出展。大学医局単位での学生に対する個人的に手厚い勧誘が重要であり、我々が小児外科の情報を提供するだけでなく、学生や若手医師と接することで、何か勧誘に有効な方法を考案するための糸口をつかむ。

- ・動画コンテンツを作成し、「かっこいい」と憧れるような動画のダイジェストや小児外科の魅力や小児外科を志した理由などを語ってもらう動画を掲載する。

- ・小児外科専門医になるための専門医研修システムの解説(HP内)、現状は研修施設一覧が閲覧できるようになっているが、手術件数や問い合わせ先(研修担当者)なども記載する。

- ・学生の希望に則した相談窓口を設置し学生が未来像を描けるようにする。

- ・新生児、乳児期に手術を受けて成人した患者、もしくは、患児が未成年の場合はその親のインタビュー動画などを患者・家族会の担当者をお願いして、患者さんの声を乗せる(HP内)。

(8)悪性腫瘍委員会(大植担当理事)

大植担当理事より、資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・悪性腫瘍登録追跡調査の年限について、追跡調査は5年ごとに行い、各疾患担当の委員がまとめ、日本小児外科学会雑誌に投稿するという事になっている。今年はその集計年、つまり2011-2015の5年分の集計を行う年にあたるが、2017年分で追跡調査が終了することから2011-2017の7年分で再来年に行うこととした。

- ・悪性腫瘍登録追跡調査登録事業の倫理委員会審査のIRBについて、2020年12月現在、親施設として京都府立医大、九州大学での2件の申請が許可されていたが、研究代表者の

異動や研究終了日の変更困難などの不都合が生じたため、今回新たに日本大学医学部附属板橋病院で再度倫理委員会を申請し、2021年2月12日に承認された。

・日本小児血液・がん学会との連携事業について、コロナ禍でなかなか日本小児血液・がん学会学術委員会と会合を持てずにいたが、2/8にwebで会合を行い、あくまで日本小児血液・がん学会の登録事業であり、日本小児血液・がん学会での会議、検討が行われなければ、解析そのものを行うことができないことについて意見交換した。まずは日本小児血液・がん学会固形腫瘍の解析と報告を行うこと、そして本学会にどのようなデータを渡すのかという議論を日本小児血液・がん学会側でもらうことを確認した。日本小児血液・がん学会での固形腫瘍の解析は日本小児血液・がん学会がその学会員の中から指名ということになる。

(9) 学術・先進医療検討委員会(臼井担当理事)

臼井担当理事より、報告がなされ承認された。

・科学研究費の採択状況についての実態調査のアンケートを予定しており、準備を進めている。

(10) 倫理・医療安全管理委員会(野田担当理事)

野田担当理事より、今回特に報告事項が無い旨を述べられた。

(11) データベース委員会(田中担当理事)

田中担当理事より、報告がなされ承認された。

・NCDデータを利用した研究申請について、委員会内での審議方法を変更した。

(12) 小児救急検討委員会(田中担当理事)

田中担当理事より、報告がなされ承認された。

・2021年度小児救急セミナーは外部講師2名による講演のため謝礼・交通費が発生する。

・2月の地震について、対象地域の評議員に状況を確認したが、人的被害は無かった。

(13) トランジション検討委員会(田中担当理事)

田中担当理事より、報告がなされ承認された。

・トランジション実態調査についてまとめたデータを日本小児外科学会雑誌に投稿を予定している。

(14) ワークライフバランス検討委員会(浮山担当理事)

浮山担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

・第58回学術集会においてWLB検討委員会企画の講演会を予定しており、日本医師会の

資金面でのサポートを得る予定である。なお、外部資金を取ってきた際に、謝金 5 万円を超える額を出したい場合には、事前に理事会で審議を行うことが確認された。

(15) 規約委員会(金森担当理事)

金森担当理事より、今回特に報告事項が無い旨を述べられた。

(16) 研究倫理委員会(野田担当理事)

野田担当理事より、報告がなされ承認された。

- ・ 第 58 回学術集会の演題から倫理規定について施行を行う予定と確認された。どのような形での試行とするかは継続審議とした。また、査読者へのインストラクションを準備した方がいいという意見があった。

(17) NCD 連絡委員会(臼井担当理事)

臼井担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・ 2021 年度 NCD-P 改修作業について、本年 1 月から稼働した 2021 年度 NCD-P において、稼働開始後に「小児外科術式選択システムが実装されていない」「フィードバック機能の判定ロジックのミス」といった問題がユーザーからの指摘で判明した。これらはいずれも NCD 側のミスであったため、NCD 側で速やかに対応が行われ、現在はともに修正されている。

- ・ オーディット（サイトビジット）の在り方について、COVID-19 禍により、従来当学会で推進してきた「サイトビジットによるオーディット」は本年度事実上施行不可能な状況となっている。当委員会では代替策として他領域のいくつかで行われているリモートオーディットの検討も開始したが、現状では検討・解決すべき課題が多く、実現には相当の時間がかかる見込みである。委員会内での今後の方向性としては、可能となり次第、従来のサイトビジットでの施行を目指して調整を進めることを基本線としつつ、平行してリモートオーディットについても検討を継続する方針とした。

- ・ NCD 小児外科領域登録に関する Q&A について、前回理事会以降に 6 つのユーザーからの質問があり、委員会内で検討を行って回答した。

- ・ 日本泌尿器科学会が開始した腎盂形成術に関する NCD 登録に関して、小児外科領域での協力要請があった件について、委員会内で情報を共有した。今後学会として具体的にどのような対応ができるかについての検討を開始する予定である。

(18) ガイドライン委員会(金森担当理事)

金森担当理事より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・ 小児外科診療に関するガイドライン等の情報提供、学会 HP への新規掲載候補を 6 件とした。全て承諾済みでホームページに掲載予定。（「形成外科診療ガイドライン 2 急性創

傷/癒痕ケロイド」「内視鏡外科診療ガイドライン 2019」「科学的根拠に基づいた赤血球製剤の使用ガイドライン」「同血小板製剤」「同アルブミン製剤」「医療スタッフの放射線安全に係るガイドライン (HP 上掲載済み)」)

・ヘルス出版社より、書籍「小児版臓器提供ハンドブック」の編集協力の依頼が理事長宛にあり、学会 HP 上でパブリックコメントを募集することに関して意見を求められた。委員会内で審議の上その結果を事務局に提出した。

・腸回転異常症診療ガイドラインについて、現在学術集会でガイドライン報告及びシステムティックレビュー報告の準備中、今後、書籍化及び英文化について検討予定：東京医学社での書籍化を検討中、学会でまとめて購入して会員に販売する方法で、廉価販売や定価の値下げが可能である。

・次期ガイドライン作成について、疾患候補「胃軸捻転（新生児期と年長児をともに含める）」「出生前診断される卵巣嚢腫」、およびメンバー候補について、次期委員会に申し送る予定。

(19) 利益相反委員会(金森担当理事)

金森担当理事より、報告がなされ承認された。

・役員等の利益相反自己申告書の対象に専門医制度委員会が含まれていなかったため、今年から専門医制度委員会にも提出を求めることとした。

(20) 総合調整委員会(藤野庶務委員長)

藤野庶務委員長より資料に基づき、報告がなされ承認された。

- ・第 58 回日本小児外科学会学術集会の進捗状況
- ・2021 年度秋季シンポジウム・PSJM の件
- ・役員選挙に関する報告
- ・学会としての小児外科専門医の地域ごとの適正数の検討
- ・学術集会のあり方について
- ・理事会のあり方について
- ・小児外科関連研究会の今後のあり方についての提言
- ・科学研究費の審査区分見直しについて
- ・外科医のインセンティブ（外科学会アンケート）について

(21) 日本外科学会理事会(田尻理事長)

田尻理事長より、今回特に報告事項が無い旨を述べられた。

(22) 四者協関連(田尻理事長)

田尻理事長より、今回特に報告事項が無い旨を述べられた。

(23) 医薬品・医療機器検討委員会（和田委員長）

和田委員長より資料に基づき、報告がなされ承認された。

・短腸症候群に対する治療薬 Teduglutide の早期承認の要望、テデュグルチド製剤の在宅自己注射指導管理料への対象追加の要望を厚生労働大臣および担当部局へ事務局から理事長名で要望書を提出した。

・魚油を含む配合剤 SMOF lipid の要望について、魚油由来静脈注射用脂肪乳剤 (Omegaven) の要望と平行して進める方針とし、企業や国内連携企業に打診、小児科、成人領域でのニーズ、意見を調査、検討中である。次回理事会で SMOF lipid の要望書案を作成（2年前のものをアップデート）予定である。

・AMED 医薬品等規制調和・評価研究事業「小児医薬品の早期実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究」（中村班）2020年度「全体班会議及び小児関連学会代表委員との情報交換会」（2021年1月15日）に和田委員長、古田副委員長がweb参加した。

・ミキサー食注入で健康をのぞむ会より「既存規格接続コネクタ存続と使用継続の要望」への賛同について、日本重症心身障害学会が経腸栄養分野で、新規コネクタ（小口径コネクタ）の導入後も現行コネクタを存続させる必要性があることに関する提言などを行い、厚生労働省 薬事・食品衛生審議会薬事分科会 医療機器・再生医療等製品安全対策部会安全対策調査会で検討され、旧規格品の出荷終了期限を1年間（2022年11月末まで）延長し、2021年度内に課題の整理及び対応策の検討を行うことになった。ミキサー食注入の際の抵抗負荷増加の懸念のほか、捻りが必要なため、手首への負担増加の懸念、新規規格品のコネクタ部分の汚染の懸念、薬剤や栄養剤の吸入に専用のチップやノズルが必要、などの懸念事項が掲げられており、新規規格は国際規格とは言っても米国など海外での普及率もかなり低い。本学会として、日本重症心身障害学会の提言などに賛同して対応すべきかについては、様子を見ながら引き続き委員会で継続審議することにした。

7) 選挙管理委員会（藤野庶務委員長）

藤野庶務委員長より以下の点について報告がなされ、承認された。

- ・役員立候補者には所信表明演説動画を掲載できることで進めている。
- ・定員数に収まる立候補の場合でも、選挙（信任投票）を行う。

8) 2020年度事業報告・2021年度事業計画について（藤野庶務委員長）

藤野庶務委員長より資料に基づき、2020年度事業報告・2021年度事業計画の原案が提示され、各委員会で追記する事項があれば3月26日までに事務局まで連絡することとした。

9) 名誉会員・特別会員推戴について（田尻理事長）

審議の結果、以下の4名を本年度推戴候補者として内諾を確認の後、社員総会（評議員会）

に諮ることとした。

名誉会員推戴候補者：窪田 正幸先生

名誉会員推戴候補者：仁尾 正記先生

特別会員推戴候補者：川原 央好先生

特別会員推戴候補者：出口 英一先生

10) 外科医のインセンティブについてのアンケートについて（田尻理事長）

田尻理事長より資料に基づき、本学会としては小児外科専門医にインセンティブが付くことに重点をおいてほしいと記載したアンケート案を作成したと報告があり、一両日中に意見が無ければ、外科学会に提出することが承認された。

4. 報告事項

1) 理事長報告(田尻理事長)

(1) 第4回メール審議報告（【小慢】疾患概要／診断の手引きの改訂に係る担当者）について、全会一致にて承認されたことが報告された。

(2) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.379」を受領した。

(3) 日本小児科医会からの寄贈本「日本小児科医会ニュースNo.71」を受領した。

(4) 日本製薬工業協会からの寄贈本「製薬協ニューズレター No.201」を受領した。

(5) 日本内視鏡外科学会からの通信文「理事長就任のお知らせ」を受領した。

(6) 日本癌学会からの通信文「理事長就任と一般社団法人移行のお知らせ」を受領した。

(7) 日本産科麻酔学会からの通信文「理事長退任のお知らせと理事長就任のお知らせ」を受領した。

(8) 日本医学会からの通信文「バリシチニブ製剤の最適使用ガイドラインについて」を受領した。

(9) 日本医学会からの通信文「医療事故調査制度に係るセミナー、Ai 研修会の開催について」を受領した。

(10) 日本医学会連合からの通信文「旧優生保護法の検証のための検討会報告書について」を受領した。

(11) 川野小児医学奨学財団からの通信文「2021年度医学会女性二次募集のご案内」を受領した。

(12) 日本医学会からの通信文「日本医学会 120周年記念事業「日本医学会 120年記念誌」について（ご意見・ご要望のご依頼）」を受領した。

(13) 日本医学会からの通信文「臨床研究法の統一書式について」を受領した。

(14) 日本医学会からの通信文「レギュラトリーサイエンス戦略相談に関する実施要綱の一部改正について」を受領した。

(15) 日本医学会からの通信文「MID-NETの利活用に関するガイドラインの改定について」を受領した。

(16) 日本医学会からの通信文「再生医療等提供計画等の記載要領等の改訂について」を受領した。

(17) 日本医学会からの通信文「家庭用心電計プログラム」及び「家庭用心拍数モニタープログラム」の適正使用について」を受領した。

(18) 日本医学会からの通信文「第 88 回日本医学会定例評議員会の資料について」を受領した。

2) 次回定例理事会日程の確認(田尻理事長)

次回定例理事会は令和 3 年 4 月 27 日 (火) 10 : 00 ~ 14 : 00 完全 web 会議にて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____